平成30年度第3回四街道市みんなで地域づくり推進委員会 会議要旨

【開催日時】平成 31 年 2 月 18 日 (月) 9 時 40 分~16 時 30 分

【開催場所】四街道市文化センター3 階 会議室 301 号室

【出席者】(委員) 庄嶋委員長、中山委員、関委員、田中委員、金子委員、賀川委員 (事務局) 岩林課長、安永係長、齋藤主査補、友藤主事、橋本主事

【傍聴者】51人(自由観覧 総数)

# 【次第】1 開会

- 2 委員長挨拶
- 3 議事
  - (1) みんなで地域づくり事業提案制度(平成31年度実施)公開プレゼンテーションについて
  - (2) 採択事業の審査について
  - (3) 結果の公表について
- 4 閉 会

## 【会議経過】

- 1 開会
  - 一省略一
- 2 委員長挨拶
  - 一省略一

# 3 議事

- (1) みんなで地域づくり事業提案制度(平成31年度実施)公開プレゼンテーションについて
- ―プレゼンテーション内容省略―
- 一以下質疑応答要旨—
- 1. 四街道あそびっこ基地

(金子委員)

活動に使用している空き家は、将来的にも継続して使用できるのか。

(回答)

空き家の持ち主の理解を得て、応援していただきながら活動をしており、今後も利用できる見通しがついている。

### (関委員)

参加者は毎回同じなのか、日によって異なるのか。

#### (回答)

スタッフの子どもが連れてくる新規の参加者が、平均して毎回2人程度いるような状況。 新規の子どもが継続して来てくれることもあるが、他の居場所に行く場合もある。

### (関委員)

木曜日にプログラミング教室を開催するとのことだが、四街道・科学未来からくり倶楽 部が来訪して教えるのか、もしくはあそびっこ基地のスタッフが教えるのか。

### (賀川委員)

プログラミングはステップアップをしていくと思うが、既にプログラミングを学んだ子 どもが新しくプログラミングを始める子どもを教えるような対応をする予定はあるか。

### (回答)

プログラミングの知識はスタッフも覚える予定で、既にプログラミングの知識のある子どもたちに教えてもらうことも考えている。大人が教えるというよりは、プログラミング教室でステップアップしていった子どもたちが教えることで、子ども同士で切磋琢磨する形にしたい。

# (中山委員)

あそびっこ基地で勉強をしたい子どもと、それ以外の作業をしたい子どもでスペースを 分けた方が落ち着いて勉強できるのではないか。

### (回答)

スペースを分けていても、最終的には皆同じ場所に集まってしてしまう。子どもたちに とっては、それでも良いのではないかと思う。静かな場所を望む子どもは、部屋の中でも 静かな場所を自ら選んでいる。

## (中山委員)

月ごとにイベントが催されると思うが、計画が決まっているのか、突発的に子どもたち の反応に応じているのか。

### (回答)

午前中は企画したものを行っており、放課後は突発的に行っている。年間計画はおおよ そ決まっているが、今時点では、紙ベースで出しているものはない。

## (庄嶋委員長)

運営側から見て、あそびっこ基地に来てほしいと思う対象者はどういった層か。またその方たちは来ているのか。

#### (回答)

未就学児の親子連れの参加者に来ていただきたいが、現在はまだ参加者が少ないため、 広報をしていきたい。

# 2. 四街道こどもまちづくりプロジェクト実行委員会

### (賀川委員)

材料費は、こどものまちで商品を販売する際の売り上げで賄えないか。

### (回答)

こどものまちの中では、こどものまちの専用通貨でやりとりすることに意味があると考えているため、現金を取ることは考えていない。現金は入場料で取っており、材料費や保険料はそこから賄っているため、今後もそうする予定である。

## (賀川委員)

東京情報大学の学生以外では、どこから人材を確保することを考えているのか。

### (回答)

現在も、ボランティアサイトからの応募や、人が人を呼ぶことで集まっている。昨年度は吉岡小学校の保護者と教職員の会でも紹介していただき、学校だよりの中にもこどものまちの活動を載せてもらえるようになったことで、子どもたちの保護者にも広報ができている。自治会の協力もあり、地域回覧にも掲載していただいており、フェイスブックでの募集も行っている。

## (関委員)

協賛金以外の調達手段など、補助金がなくなってからの資金運用についてはどのように 考えているか。

### (回答)

協賛金を集めるのに苦労している。ウエルシアのように、お金ではなくとも、物資を出せるというところにも協力を依頼することも検討している。

昨年度は協力の依頼の時期が急だったことで、今年度の協力は得られなかったものの今後の協力を検討してくださった企業もあるため、地道にアプローチをしながら、経費節減に努めたいと考えている。

### (中山委員)

参加者が多いが役員の数が少ないように見受けられる。組織的な取り組みや役割分担についてはどのように考えているか。また、大学生は行事が重なって参加が難しくなる可能性がある。そういった組織面の課題をどう解決する予定か。

#### (回答)

事業に関わるメンバーの多くは学生で、卒業していくため、役員として名前を載せることのできない者が多くいる。学童保育にも声をかけたところ、組織に所属するとなるとためらいがあるものの、当日の受付だけなら協力できるといった声を聞くことができた。当日は、そのような方に手伝ってもらえるようにしている。役割を明らかにすることで、その場で仕事を振っていけるような仕組みをつくっていきたい。

#### (金子委員)

吉岡地区とその近隣からの参加者が多いが、市内のほかの地区からの参加を増やすこと

はできないか。

#### (回答)

吉岡地区はほかの地区から行きづらい場所というのもあり、どちらかというと、千葉市 若葉区方面の参加者が増やしやすいと感じている。当日はプレーパークも開催するため、 四街道市内のプレーパークの参加者の子を誘って来てもらいたいと考えている。

また、中央公園の方で当団体と類似した取り組みを行おうとしている新しい団体「子ども商店街実行委員会」も生まれているため、ほかの地区に関してはそちらで対応いただくことも考えている。

# 3. 子ども商店街実行委員会

#### (田中委員)

商工会とはどのように連携するのか。また、今後の見通しはついているか。

## (回答)

現時点では、商工会という広い範囲で関係を持っている状態。商工会と強く関わっていき、その過程で連携を深めていきたい。

### (金子委員)

拠点となる小学校はどこを予定しているか。こどものまち経験者の吉岡小学校の子が PR する等の工夫をする予定はあるか。

### (回答)

中央小学校と四街道小学校は特に人数を多く集めたいと考えている。リーダースクラブ の講習会や、子ども会でのレクリエーション等で子どもと関わる機会があるので、そうい った場での子どもの輪を利用して巻き込みながら参加者を集めたい。

#### (賀川委員)

活動の中で出る反省点に対して、どのように対応する予定か。

### (回答)

子ども商店街の活動の中心メンバーとなるリーダースクラブは、地域の子どもたちと触れ合う講習会を行っている。こども商店街と形式は異なるものであるが、子どもを多く呼んで活動する場であり、子ども商店街につながるものだと考えているため、そこで出た反省点が活かせると考える。

## (関委員)

予算書の収入欄における大人の参加費は、どの程度現実的な数字なのか。また、協賛金のめどはついているのか。

### (回答)

大人の参加費については見通しで、まだ詳細が決まっていない。内容が具体的に決まってきたら、それに合わせた金額にしたいと考えている。

協賛金の店舗数は、吉岡地区で行った四街道こどもまちづくりプロジェクトで集まった

協賛金をもとに計上した。金額は、こどものまちで企業から商品提供をしていただいた分 を現金に換算した額を参考に設定した。

## 4. 四街道・科学未来からくり倶楽部

(田中委員)

講師の現状はどのようになっているか。

(回答)

講師は、プロの方を呼ぼうとすると、平日は働いていることが多く難しい。平日活動できるようにするために、プログラマーを退職された方等、平日に時間のある方とコンタクトを取りたいと考えている。また、高度なことを行っているわけではないので、一度覚えれば中学生でも講師はできると考えている。基本的には子ども同士で教えられる環境をつくりたいと考えている。

## (金子委員)

来年度から学校でプログラミングの授業が始まるが、学校に直接出向いて、教職員を支援する予定はあるか。

### (中山委員)

公民館使用には費用がかかり、使用していくのが難しいのではないかという懸念があるが、教育委員会の主催事業にすれば使用料の削減も見込めるのではないかと考える。より 連携を強めるような交渉は行っているのか。

#### (回答)

現在、教育委員会指導課と既に連携を取っている。

プログラミング関係のものについては東京情報大学が教育委員会と連携をしていること が考えられるため、我々が出ていくところではないと思っている。旭小学校と吉岡小学校 で、クラブ活動の中で行っている体験教室で、遊びながら学べるような形の取り組みをしていきたい。

活動場所については、依頼者に用意していただき、そこに向かう形で行っており、公民館の使用についても、大きな額は必要ないため、やりくりできる範囲であると考える。将来的に事業の規模が大きくなった時には、考える必要があると考える。

#### (中山委員)

PR はどのような形でしているのか。

#### (回答)

活動が広まりすぎると手が回らなくなる可能性があるため、ホームページは持っていない。専用のコンピューターの数にも限りがあるため、活動は少しずつ広げていきたいと考えている。

### (金子委員)

家庭で使わなくなったようなコンピューターは使えるのか。

#### (回答)

様々な場所に移動しながら活動するため、団体で所有するコンピューターは、通常のものよりも小さい方がよい。参加者がノートパソコン等を持っている場合は可能な限り持参していただくようにしている。

# 5. 四街道グルメチックフェスティバル実行委員会

### (賀川委員)

人材確保はどのようにするつもりなのか。

## (回答)

今まで開催してきた中でボランティアをしていただいた方から声をかけられており、協力を得られる見込みがある。

#### (関委員)

コンセプトを明確化した方がよりよいと考える。また、より四街道らしさを出すための 考えはあるか。

### (回答)

現在はコンセプトを設けているわけではないが、四街道のものを使った料理等という縛りを入れるのもよいのではないかと考えている。その中で新たな特産物が生まれることも期待できると考える。

### (庄嶋委員長)

グランプリに選ばれたことで、その店舗には、どのような効果を及ぼしているのか。また、その後のグランプリの PR についてはどのようなことを行っているのか。

## (回答)

グランプリ、準グランプリにはそれが分かるようなのぼり旗を渡している。去年は、イベント終了後の店舗のPRができなかった。今年からは、そういった点も意識しながら店舗のアピールもしたいと考えている。また、イベントは店舗を知らない人への宣伝効果があるため、店舗名もPRしたいと考える。

#### (中山委員)

予算書が大雑把な印象を受ける。

屋外のイベントのため天候に左右される懸念がある。

子どもがなかなか参加できず、大人の食べ物が中心になっている。子どもも楽しめるような店舗の配置や、料金設定についても考えていただきたい。

## (回答)

予算については、昨年のものを参考に設定しているが、大まかにしか出せていない部分がある。天候は外で行うイベント上、致し方ないところがある。現時点でも子どもの参加は多いが、子ども向けの要素も今後検討したい。

### 6. おやこカフェツリーハウス

## (金子委員)

アートフェスタについては、昨年度多くのチラシを作成したようだが、何人程度来場し たのか。また、アーティストは定着しているのか。

#### (回答)

300 人程度が参加した。チラシの効果もあったが、市政だよりを見ての参加が多かった。 作成したチラシは出展者にも渡して、広報の協力を得ているため、集客効果はあると考 える。アーティストについては、次回も引き続きやりたいという方や、風のうわさで来る 方もいる。今年の春はステージを使ったダンスパフォーマンスを企画している。

# (金子委員)

ツリーハウスについて、景色を見るだけでなく、より多くの人が利用しやすい場所になるために、そのスペースを利用したイベントはできないか。

## (回答)

ツリーハウスについて、子どもは登り降りを繰り返して楽しんでいる。大人向けに定着してもらうためには、ツリーハウス付近の焚き火ができるスペースで、コーヒー等を飲んでゆっくり過ごすような企画を考えている。

### (金子委員)

観光事業の振興にもなるとのことだが、ツリーハウスがあるということだけでは、観光 事業の振興は見込めないのではないかということや、吉岡分校の活用に係る時間と労力に 懸念がある。より現実的なビジョンを掲げた方がよいのではないか。

#### (回答)

吉岡分校について、ビジョンに掲げてはいるが、より現実的なものとしては、今、四街 道市と千葉市と市原市で産業マップを作成するという話をいただいている。ツリーハウス だけでなく、吉岡周辺の観光資源を活かして、その中の拠点のひとつとなりたいと考えて いる。

## (関委員)

参加者の想定数と当日のパンフレットの印刷部数の数字の差にはどういった理由があるのか。

#### (回答)

パンフレットは参加者用とスタッフ用を作成しているため、その合計の枚数になっている。

# (関委員)

補助金終了後の広報は、リスティング広告に変えるとのことだったが、それでも現在の 補助金分を補えるというものではないと考えるが、どのように対策していく予定か。

### (回答)

市政だよりからの参加者が多いため、市政だよりの掲載を軸に活動していきたい。

### (田中委員)

市内の父親がよりつながれるような具体的な案はあるか。

### (回答)

四街道の中心地のあたりで、父親が集まる機会をつくりたいと考えている。駅周辺の方で当団体の活動に参加される方がいるため、その方につなぎ役をしていただいて、仕事帰りに駅周辺で話す会を開催したいと考えている。

## 7. やまなし「月見の里」づくりの会

### (金子委員)

整備が終わった後はどう展開する予定か。

管理についてはどのように行っていくのか。

#### (回答)

ひまわりサロンと連携しており、パワーも道具もある高齢者の力を借りるため、これから派生させたいと考えている。

市内の里山については、それぞれが独立して整備されていき、全市的にあるような状態になればよいと考えている。自団体の活動をきっかけに新たに里山が整備されて広がっていくのが理想である。

敷地の管理については、仕切りができるようになっており、オープン時以外立ち入り禁止の表示ができるようになっている。

### (中山委員)

竹で炭をつくることができる場があるとよいと考えるが、市内の竹を集めて炭にすることや、その販売を行う等の活用は考えているか。

#### (回答)

想定にあったが、今年度は天候の関係でできなかった。竹炭をつくる釜を持っている団体があるため、実施できる環境は整っている。

### (庄嶋委員長)

会員数は 5 名で、様々な他団体と協力しながら活動しているということだが、会の人数は多くなくとも活動していけるという考えなのか。自前のマンパワーに不安はないか。

#### (回答)

現在は小規模で行っている。会としての正式な会員は少ないが、実際に活動している方 たちを入れると 10 人以上になる。ただ、会員が病気になったとき等のためにもう少し人員 を確保したいと考えている。

## 8. ちょこっとクラブ(地域づくり部門)

### (金子委員)

ちょこっとクラブにはスポーツ関係の事業もあると思うが、今回のサロンづくりは、そ

の活動の中で行っていくものなのか。

### (回答)

運動部門とサロン部門の 2 部門で行っている。ちょこっとクラブの方針を達成するという点で、共通のスタンスがある。

### (金子委員)

会員はどのくらいの人数を想定しているのか。また、補助金終了後の資金運用について どのように考えているか。

### (回答)

既に「ちょこっとクラブ」の活動に参加している会員は 100 人以上いるが、サロンは会員制の予定はない。

補助金終了後は、空き缶回収をする等して、年間 30~40 万程度の収入を見込んでいる。 実際にそういった活動をしているところを参考にして見積もっている。

また、ほかの補助金に申請できるような実績を積んで申請し、将来的には不足部分を賄いたいと考えている。

1回あたり平均20人が利用すれば、現状の内容での運営は可能と考えている。

### (田中委員)

周囲の理解はどうだったか。今後問題になりそうな点等はあったか。

### (回答)

近隣の家屋にはちょこっとサロンのチラシを持って、直接伺って説明し、ご理解をいただいた。駐車場を使わせていただける話や、オープンを楽しみにしている声等を聞いた。

サロンは何度か解放しているが、今のところ苦情は出ておらず、理解していただいていると考えている。

# (中山委員)

家賃はどの程度かかるのか。

### (回答)

親族から借用するため家賃はないが、光熱費は経費の中から捻出することを考えている。 家賃が対象経費になる助成金を将来的に受けることができれば、それを活用したいと考え ている。

#### (庄嶋委員長)

こういった場があることは地域にとってもよいことだが、自治会との関わりはあるのか。(回答)

自治会からはいすを借りる等の協力を得ている。自治会の地域の役員の方にも本日と同様のプレゼンを行い、地域の方に利用していただきたいということを伝える予定である。 今まで自治会ではできなかった、人が集まる交流の場を、ちょこっとサロンを利用して行いたいと考えている。

# 9. ちょこっとクラブ(拠点づくり部門)

### (関委員)

高額な自己資金の負担額があるが、そのめどはついているのか。

### (回答)

自己資金については既に用意してある。

### (金子委員)

より使い勝手をよくした自治会館のようなものだと思うが、誰でも入れる中で、鍵の管理や防犯についてどう運用する予定か。

### (回答)

キーボックスを取り付けており、利用する方にキーボックスを開けられる番号を教えている。サロン開催時には会員がいるが、プレイルームで地域活動をするときにもいつでも使えるよう、そのような形で運営していきたいと考えている。

### (智川委員)

本事業を行うにあたって、専門家の意見等を聞いたのか等、どのように計画を詰めていったのか。

## (回答)

リフォーム等の経験がある YSGG バンドの小林さんにアドバイザーとして関わっていただいた。金額に関しては、三社との打ち合わせでお話を伺った中での見積もりになっている。

#### 10. YSGG バンド

## (金子委員)

補助金の使い道のほとんどが備品購入費とのことだが、来年度以降は、備品購入に関する使い道での補助金は必要ないという認識でよいか。

### (回答)

機材の購入は初期投資のみ。次の世代に機材を渡せるように、有効活用していきたい。 (賀川委員)

子どもを対象とした体験づくりというのはどのようなものを考えているのか。

#### (回答)

12月に自学塾からの依頼があり、実際に小学1、2年生を対象に実施した。学校ではなかなか習わない曲や楽器に触れられる機会にしたいと考えている。

### (庄嶋委員長)

他の団体で同じような活動をしているところは市内にあるのか。

### (回答)

今のところほかの団体の活動については掌握していない。まずは当団体を魅力あるバンドとして自立できるようにしてから、他団体へのアプローチを考えたい。

## (田中委員)

若い世代(学生など)との連携があれば教えてください。

### (回答)

高齢者や子どもとの交流をスタンスにしているが、YSGG バンドが成長する中で 20~30 代の方を対象にした演奏会を開催したり、一緒に演奏することも検討したい。

### 11. てとて ~つながる支援の輪~

### (中山委員)

子どもの体験の中で、ソフトラクロスというのがあるが、この種目を選んだ理由は何か。 (回答)

淑徳大学の福祉学科に、将来特別支援学級の先生を目指す学生がいる。そこで、勉強の 意味も含めて連携できないかというアプローチがお互いあった。

ラクロスはマイナーなスポーツであり、親の口出しがしづらい種目であることから、学生が主体で動くことができ、子どもに深く関われる。また、それが子どもの成長にとってもよい影響をもたらすと判断した。

## (関委員)

これまでも自主的に活動していたようだが、どういった活動をしていたのか。

### (回答)

市の支援を得て、講演会などをやらせていただいていた。ラクロスについては自主的に 活動している。

#### (関委員)

発達障害の子どもを持つ親に向けてどのようなアプローチをしているのか。

#### (賀川委員)

発達障害について声を上げづらい方へのアプローチについてどのように行う予定か。

### (回答)

ブログで自分の思いを発信しており、それに賛同して活動に参加される方が多い。ほかにも SNS の活用や、プレーパーク「どんぐりの森」等の市内のコミュニティの場で、情報収集をしている。

幼稚園や保育園の協力を得て積極的に出向き、発達に課題のある子どもの情報を収集している。

#### (賀川委員)

父親の会については、母親はどう関わることができるのか。

### (回答)

主観的な意見だが、母親が悩みを抱え込んでいるイメージがあるため、少しでも母親の 負担を減らしたいという思いで父親の会をつくろうと考えている。将来的には母親を巻き 込む場はつくっていきたいと思っているが、1年目は、足踏みしている父親の後押しをする ことを目的にしている。

## (金子委員)

現在市内に発達障害の子どもは何人程度いるのか。

#### (回答)

四街道に限定して調べてはいないが、国の統計では子どもの約 3 パーセントは発達障害ではないかと言われている。発達障害は、きちんとした定義がなく診断が難しいため、数字に表しづらいのが現状である。

#### 12. ハニー&アップル

#### (田中委員)

月1回という予定で活動しているが、先を見越してこれからやりたいことはあるか。

### (回答)

基本的に毎月第 1 火曜日で活動しているが、スタッフの状況等様子を見ながら今後増や していく可能性はある。中高生に限らずいろいろな人に来ていただいきたいと思っている ため、月 1 で固定することを考えているわけではない。

### (中山委員)

小学生が来るときは保護者同伴になるのか。

予算書に計上されているプロジェクターとスクリーンはどのような目的で使用するのか。 (回答)

小学生は、保護者に限らず責任ある方に一緒に来ていただくようお願いしている。

プロジェクターとスクリーンは、中高生が見ているスマホの画面を映し出して、その場にいる皆で一緒に見る等に活用したいと考えている。

#### (関委員)

似たような活動は小学生を対象にしていることが多いが、なぜ中高生をターゲットにしたのか。

## (回答)

食に関する問題は幅広い子どもに関係するものと考えているが、近隣に四街道高校、四街道北高校、四街道北中学校があるため、ここでは、中高生を対象にするのがよいと考えた。

## (庄嶋委員長)

当日にならないと参加者の人数がわからず、それに対して料理をつくる量の想定が難しい等があると思うが、そういった運用上の課題はあるか。

また、子ども食堂は、差別的に見られないためにも、コンセプトが重要である。中高生を軸としながらも、どのように活動の幅を広げていきたいかのコンセプトはあるか。

#### (回答)

用意する食の量については、いつ、何人来ても対応できるように、一定数の食事はつく

って来客を待っている。

中学生を軸にしつつも、大人にも来ていただきたいと考えている。中高生だけが食に関する問題を抱えているのではないことや、食の大事さについても考える場となってほしいと思っているため、食に問題を抱えている子が来る場所だという見方をされないような場所にしたいと考えている。

#### 13. たろやま会

## (金子委員)

パンフレットは、市が発行するのが適切ではないか。

#### (回答)

市への要望は何度か出しているが、財政上の問題から通らなかったため、当団体から発行することとした。

## (中山委員)

たろやまの里には、学術的な価値になるような貴重なものはあるのか。

### (回答)

たろやまの里には貴重なものもあるが、貴重なものがあるから保全するのではなく、身 近に多様性のある自然があることが貴重であるという考えのもと活動している。

### (中山委員)

近隣にある栗山小学校との連携の予定はあるか。

#### (回答)

小学校とは常に連携を取り、観察会等を行っている。

## (庄嶋委員長)

冊子はどのような内容が記されたものになる予定か。

## (回答)

谷津田や山がどのような役割をもっているのか、どのような生態循環をしているのかに ついて、写真付きで記載する予定。

#### (金子委員)

たろやまの里に限らず四街道全体にはいろいろな谷津田があるが、全体的なものなのか。 たろやまの里についてだけの内容なのか。

## (回答)

今回はたろやまの里のみだが、その中で、四街道全体の自然に興味をもっていただける のではないかと考えている。

四街道の中でどういった自然があるかの紹介ページをつくるのもよいかと考えている。

### (庄嶋委員長)

観光の観点からは、四街道ならではの資源として、里山の自然や谷津田の自然があると 考える。市外からいらした方々がパンフレットを使用するような展開があるとよいと思う。

### (回答)

そのような用途での配布も予定している。

## 14. 四街道こども記者クラブ

### (賀川委員)

部活が忙しい生徒への対応についてどのように考えているか。

### (回答)

こども記者クラブの活動は、部活や塾等の放課後の関心ごとのひとつとしてとらえていただきたいと考えている。ひとりひとりの事情に対応してしまうと活動のスピード感がなくなることもあり、包括的に行うのは難しい。できるだけ学校で決められたような勉強と部活以外の時間でできるようにして、可能な限り多くの子が関われるようにしたいと考えている。

## (金子委員)

中学生を対象にフリーペーパーを配布するとのことだが、こども記者クラブのメンバー が学校に持って行って依頼するのか、どこかを介して一斉に配布するのか。

### (回答)

学校に直接持ち込み、全生徒に配布する予定。担任の先生から各クラスで配布してもら う等の方法を取りたいと考えている。

## (関委員)

フリーペーパーをスマートフォンやパソコンから見られるようにする予定はあるか。

#### (回答)

ホームページに pdf 等の電子媒体で公開する予定。市と連携して、市のホームページで公開する等もできれば、より多くの人に見ていただけると考える。

## (関委員)

四街道にはいくつか中学校があるため、それぞれの学校にこども記者のメンバーがいる と、中学生ごとの違いが見えて、興味深いものができるのではないか。

#### (回答)

現在小学校のメンバーがそれぞれ異なる中学校に行った状態で活動に引き続き参加すれば、様々な中学校に記者がいる状態になる。異なる学区の情報を紙面に掲載したり、中学生同士の情報交換ができるようにしていきたい。

- (2) 採択事業の審査
- 一審議内容省略一
- (3) 結果の公表
- ―事務局より結果の公表―

14件の提案のうち、12件の提案を採択とした。

(採択事業提案団体:四街道こどもまちづくりプロジェクト実行委員会、四街道・科学未来からくり倶楽部、四街道あそびっこ基地、やまなし「月見の里」づくりの会、ちょこっとクラブ (拠点・地域づくり部門)、四街道こども記者クラブ、子ども商店街実行委員会、YSGG バンド、てとて ~つながる支援の輪~、たろやま会、ハニー&アップル)

一委員長からの講評一

# 4 閉会